

平成 19 年 6 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
 (JASDAQ・コード番号：2776)
 代表者名 代表取締役社長 児玉俊明
 問合せ先 取締役管理部長 藤田 潔
 電 話 03-3548-1515

平成 20 年 1 月期業績予想（連結・個別）の修正及び
 期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社が平成 19 年 3 月 16 日付「平成 19 年 1 月期 決算短信（連結）」及び同日付「平成 19 年 1 月期 個別財務諸表の概要」にて公表しました平成 20 年 1 月期（平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日）業績予想（連結・個別）ならびに期末配当予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

平成 20 年 1 月期（平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日）

中間期

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,130	128	38
今回修正予想 (B)	6,420	△588	△679
増 減 額 (B-A)	△1,710	△716	△717
増 減 率	△21.0	—	—

通期

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	17,470	295	97
今回修正予想 (B)	14,800	△311	△427
増 減 額 (B-A)	△2,670	△606	△524
増 減 率	△15.3	—	—

2. 個別業績予想の修正

平成 20 年 1 月期（平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日）

中間期

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	6,945	157	67
今回修正予想 (B)	5,674	△318	△376
増 減 額 (B-A)	△1,271	△475	△443
増 減 率	△18.3	—	—
(ご参考) 前年実績(平成 19 年 1 月中間期)	7,382	△423	△280

通期

(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	15,000	320	145
今回修正予想 (B)	13,045	105	12
増減額 (B-A)	△1,955	△215	△133
増減率	△13.0	△67.2	△91.7
(ご参考) 前年実績 (平成 19 年 1 月期)	14,607	△421	△341

3. 業績予想修正の理由

連結業績予想の修正に至る背景は、第1四半期における低温気候の影響により、夏物商品の立ち上がりが遅れ、売上高、利益ともに当初予想した数値に届かなかったことが主な要因です。

また、第2四半期以降の売上については以下の理由で保守的に勘案することとしました。

まず卸売事業においては、取引先小売店からの受注が今年度は過去に比べ遅く、実需要期近くまで引き付けられる傾向が顕著であるためです。次に小売事業において、レディースカジュアルウェアの企画・生産・小売事業を行っている「パイオニアトレーディング株式会社」の売上高が、品揃えと市場がマッチしなかったことにより当初予測を第1四半期において大幅に下回り、改善傾向にあるものの通期売上についても保守的に見通さざるを得ないと判断しました。

売上高が当初予測した金額を下回る見込みとなったことにより、売上総利益額も当初予測した金額を下回ることとなります。また、経費のうち売上対応変動費が当初見込みを下回ることになるものの、固定費を含む販売費及び一般管理費総額が売上総利益額の下落金額より大きく削減することができないため、経常利益、当期純利益ともに当初予測を大きく下回ることとなりました。

その結果今回の業績予想通期売上高は 14,800 百万円、経常損失 311 百万円、当期純損失 427 百万円となりました。

尚、個別業績予想の修正理由は、連結業績予想の修正理由の中でご説明させていただきました内容と同一の理由によるものです。

尚、当社におきましては、卸売事業で気温等の天候リスクを軽減するべく施策を行っておりますが、取引先小売店を通しての販売という業態の特性により、未だ十分な成果が得られておりません。

小売事業では気温の変化に合わせた店頭商品の供給入替により、天候変化に対応するよう努めております。

ライセンス事業では卸売事業と同様、天候要因のリスクを内包しておりますが、これを低減するべくライセンス料の定額化等、売上構造の改善に努めております。

【 参考 1 】

各事業部門別 (連結) の売上高の予想

(百万円未満切捨)

	決算短信発表時 (平成 19 年 3 月 16 日)	今回修正 (平成 19 年 6 月 8 日)	乖離率
卸売事業	10,300 百万円	8,590 百万円	△16.6 %
小売事業	6,290 百万円	5,430 百万円	△13.7 %
ライセンス事業	880 百万円	780 百万円	△11.4 %
合計	17,470 百万円	14,800 百万円	△15.3 %

【参考2】

当社の業績予想算出手続きについて

当社の業績予想算出手続きは、卸売事業においては、ブランド毎に顧客小売店様よりの受注金額の集計を行い、その金額に期中の受注予測金額を見込んだものを加算し、売上高を予想しております。利益については、原価率を基にプロパー時期販売、セール時期販売の比率を考慮し、売上総利益を算出しております。

小売事業においては、業態毎に店舗の出退店の時期を考慮した商品販売展開店舗数と既存店については過去実績による販売額を基に売上高を予測し、新規店舗については、同一業態店舗の面積当たり売上額実績と出店時期等を考慮し、売上高と売上総利益を算出しております。ライセンス事業においては、ブランド毎に当社がライセンス使用許諾をした企業より提出された売上予測額を基にライセンス料率によるライセンス売上見込額を算出しております。販売費及び一般管理費については、事業部門毎に変動費を売上予測額に従い、過去実績に基づき算出し予測しております。

利益については前述より算出された営業利益に支払利息予測額等を加減し、経常利益を予測し、店舗退店見込み等により特別損益金額を見積り、当期純利益を算出しております。

4. 期末配当予想の修正について

(1)平成20年1月期 配当予想の修正

	中間期	期末	年間
前回発表予想	—	2,000円	2,000円
今回修正予想	—	0円	0円

(2)配当予想修正の理由

業績予想が当初会社発表を大幅に下回り最終赤字となる見込みであることから、誠に申し訳ございませんが、当期の期末配当予想を1株当たり2,000円から無配へと修正させていただきますと存じます。

5. 経営責任の明確化

業績悪化に対する経営責任を明確化させるために、下記のとおり役員報酬カットを実施いたします。

報酬カットの期間

平成19年6月より無期限

6. 今後の対策について

現在、業績回復のための体制・組織の見直しに着手しております。基幹事業である卸売部門において、従来、商品企画部門と営業部門が別組織となっておりましたが、本年5月より、ブランド別に商品企画担当と営業担当を統合し、ブランド特性を活かした取引先対応が出来る体制に変更・運用をしております。小売事業においては、店舗別の損益管理を明確にし、不採算店舗の閉鎖を行う等の施策を継続的に実施してまいります。

また、全社的な経費の見直し等を行いコスト構造の刷新をして参ります。

以上